

NPOと行政の協働

市民活動が活発になるにしたがって、NPOと行政との協働(パートナーシップ)が、ずいぶん注目されるようになりました。確かに、NPOと行政とは、公共的な目標や利益の追求という点では、協力できるところが多く、社会的な必要性からすれば、協力したほうが大きな成果を生み出しやすい場合もあります。実際、全国各地で、NPOと行政の協働は、さまざまな実績を残してきています。しかしそうした先進的な事例、あるいはパイオニア的な事例においては、多くの場合、NPOと行政とが、大変苦勞しながら、お互いの立場や違いを理解し、共有できる目標を定め、苦心しながら事業を組み立ててきました。

さて、いま行政は、協働を政策的に進めようと、大変熱心です。支援のための施設や基金作り、補助金制度、委託事業などなど、積極的な姿勢が目立ちます。行政の推進策によって、協働の領域が広がり、協働活動が増えていくことは、望ましいことだと思います。とはいえ、形だけの協働がいくら増えても、それは市民活動の目的達成には結びつかないでしょうし、行政目的すらゆがめることになりかねません。協働という名前の下請け関係が出来上がり、不平等や不公正が生まれるようであれば、その社会全体の損害は限りなく大きいでしょう。協働の具体的なルールづくりが各地で進みつつありますが、そうした危機感の裏返しでもあるように思います。改めてNPOと行政の協働をしっかりと考えてみる必要があります。

せんだい・みやぎNPOセンター 理事 新川 達郎

内容

せんだい・みやぎNPOセンターの事業に活かすために
「地域の支援ニーズをどうとらえるか？」
仙台市百年の杜事業報告、SSS報告
センダードサロン報告、新スタッフ紹介、BOOK、
らくだのブック、事務局活動報告、など



イラスト 能藤玲子

せんだい・みやぎNPOセンターの事業に活かすために

● 地域の支援ニーズをどうとらえるか? ●

2005年春を迎え新しい事業がはじまりつつあります。そこで、せんだい・みやぎNPOセンター事務局では、事業がはじまる前に改めて仙台・宮城の地域の支援ニーズがどうあるのかを考えることにしました。今回は、月に1度当センタースタッフが全員集まるセンター会議で発表した内容をもとに、会員の皆さんと一緒に「地域の支援ニーズ」について考えてみたいと思います。

●多様な顧客・多様なニーズ

当センターのような民間のNPO支援組織が、その事業の対象とする顧客はとても多様です。その名の通り、地域のNPO（宮城県では2,000～3,000団体あると推測されます）がその中心的な顧客になるわけですが、それだけではありません。「自治体との協働」を言えば自治体も顧客ですし、「企業の社会貢献活動の支援」を始めれば地域の企業も顧客です。さらに「市民への啓発」を事業とすれば、地域の全住民が顧客になります。このような多様な顧客のニーズを把握し、それに合わせたサービスを開発し提供していくことが民間NPO支援組織には求められるわけです。

最も中心的な顧客である、地域のNPOをとってみても、そのニーズは幅広いものがあります。個々のNPOの属性、例えば

- ・活動分野
- ・会員数、スタッフ数
- ・財政規模、事業規模
- ・事務所の有無
- ・活動の頻度
- ・設立からの年数

などによって、支援ニーズは大きく異なります。極端なことを言えば、団体ごとにニーズは異なるわけです。

とはいえ、個々のニーズに1コ1コ対応していくのは現実的には困難です。そこで、顧客ニーズを詳しく分析し、何らかの傾向をもつ顧客をグループ化してそれに対応する事業を開発す

る「分節化（セグメンテーション）」の作業が必要になります。

●顧客の分節化（セグメンテーション）

地域のNPOに「あなたの活動の問題点を挙げてください」という質問をすると、だいたい表1のような回答が返ってきます。

表1 宮城県のNPOが抱える問題
(参考資料1より作成)

現状における問題点	任意団体 (%)	NPO法人 (%)
資金不足	20.6	26.8
人材不足	30.2	12.7
活動場所(拠点)がない	6.1	5.6
情報発信機能の不足	6.3	12.4
研修機会の不足	4.9	3.6
情報収集機能の不足	3.7	4.9
助言者の不足	5.2	5.9
社会的認知・理解の不足	12.4	15.7
行政の関与が大きい	1.9	1.3
行政との関わりが少ない	4.6	8.5
その他	4.1	2.6

この表からは、地域のNPOが全体としてどのような支援ニーズを抱えているかはわかりませんが、具体的に支援事業を行う際には「NPO全体」ではなく、もう少し顧客の範囲を絞って

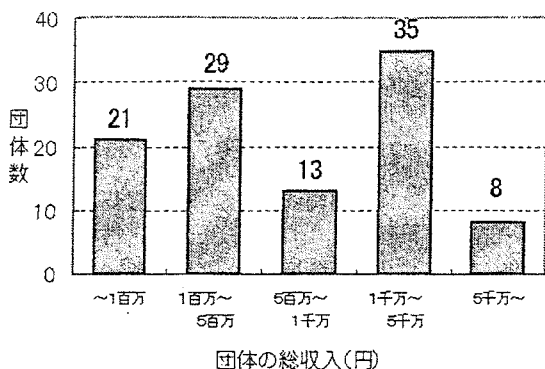


図1 東北のNPO法人の財政規模分布
(参考資料2より作成)

いく必要があります。

一番わかりやすいのが、団体の財政規模・事業規模による絞り込みです。表1とは調査対象が異なりますが、NPOの団体数を財政規模ごとに分けてみると図1のようになります。

さらに、この財政規模ごとに団体の支援ニーズを分解してみると、表2のようになります。

このように、団体の財政規模によって、支援ニーズは大きく違っていることがわかります。また、一口に「資金支援」といっても、「どのような資金」が必要とされるかは、やはり多様であることは容易に想像できます。

一例をあげると、当センターでは宮城県のNPO支援基金「みやぎNPO夢ファンド」を県と協働で運用しています。このファンドには「人材育成支援」「ステップアップ支援(100万円を最大3年間)」「スタートアップ支援」という3つのプログラムがありますが、その開発・設計に際しては、表2の中のどのようなグループを対象にし、そのグループのNPOが「使いやすい

い資金」をどう提供するか、ということを常に念頭に置いていました。

●とはいえ、ニーズに対応するだけでいいのか??

しかしながら、民間のNPO支援組織としてサービスを提供する際に、単なる「ニーズの充足」だけでは足りない場合もあります。それは、ニーズとして顕在化しないが必要なサービスがあったり(例えば、法制度や税制度、NPO支援基金といった社会基盤の整備等)、あるいは「資金支援」のニーズがあがっていても実はその原因が「人材不足」である等、アンケートによるニーズの現れ方に問題があったりするためです。

ニーズは大事ですが、ニーズがすべてではありません。最終的には「直感勝負」の部分もありますが、一定の勝ち目のある勝負をしていきたいものです。

●参考資料

1. 宮城県環境生活部『平成15年度宮城県NPO活動実態・意向調査報告書』(平成16年3月)
2. 経済産業省東北経済産業局『経済産業省(経済産業局)におけるNPO等への支援・連携等の推進に関する調査報告書』(平成14年3月) (高田篤、青木ユカリ)

大分類	小分類	団体の総収入階層				
		～1百万円	1百万円～5百万円	5百万円～1千万円	1千万円～5千万円	5千万円～
人材	団体の運営を担うスタッフ	19.8	33.1	24.4	27.1	17.3
	その他スタッフ	1.6	0.6	2.6	1.9	0.0
ノウハウ	スタッフの研修・技能向上	9.5	12.7	11.5	8.1	11.5
	会計・税務等の専門技能	1.6	6.0	1.3	6.7	3.8
	マネジメントの知識・相談・研修	8.7	7.2	11.5	11.0	15.4
資金	資金調達	23.8	21.7	21.8	15.2	11.5
	税制優遇	2.4	1.2	0.0	6.2	13.5
	融資制度	2.4	0.6	0.0	1.4	11.5
その他	物品・場所	0.0	1.2	1.3	0.0	3.8
	事業の充実	19.8	8.4	14.1	17.1	11.5
	情報	6.3	2.4	3.8	1.0	0.0
	ネットワーク	1.6	3.6	7.7	4.3	0.0
	その他	2.4	1.2	0.0	0.0	0.0
合計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2 団体の財政規模階層ごとの、支援ニーズの分布

◆ 仙台市百年の杜事業 報告 ◆

今年度、百年の杜づくり推進のため2つの事業に取り組みました。(主催：仙台市、受託：当センター) 市民と行政の協働のまちづくり推進を目指し、緑づくりを通しての市民参加の促進を行いました。両事業ともワークショップを通して行政職員と市民、市民団体間の交流が促進され、協働のあり方も体験できたことは大きな収穫となりました。

市民トラストの森事業：市民参加の森づくり

開催日：2/12(土)、2/26(土)、3/13(日)

市民参加の森づくりを進めるための仙台市初のモデル事業です。初回に(特活)NPO birthの佐藤留美氏より事例を交えながら市民や行政の立場や考え方、協働のあり方などについて講話を頂きました。その後参加者の共通理解を得た後に話し合いを重ね、「仁田谷地・市民の森は水芭蕉の里～水と緑と人がつなぐ里～」というコンセプトを導き、今後の具体活動を検討しました。なお、本事業は次

年度も引き続き事業を展開していきます。

緑あふれる街づくり市民による百年の杜づくり講座

開催日：2/22、3/1、3/8、3/15 毎週火曜日

アダプト・プログラム(※)をモデルケースに市民が主体的に緑づくり活動を行える仕組みを考えました。アダプト・プログラムを推進する(財)食品環境美化協会の谷津直生氏、既に取り組んでいる県内市内の行政・市民の方々から事例を伺った後にグループワークを通して最終回は4つの具体的な活動の提案を行いました。市民と行政職員が同じテーブルを囲み“協働”の取り組みを検討しあう中、市職員から「緑づくりのためにこうしたい!という市民がたくさんいることを知った。」という感想も出るなど行政と市民の距離がぐっと近づきました。(佐藤友里)

※アダプト・プログラムとは、道路・公園等の一定の区域を養子に見立て、住民等が里親となった上で、行政が支援しながら住民等が清掃や緑化活動を行う新しい手法です。

本格運用三年目となる二〇〇四年度のサポート資源提供システムは、物品・パソコン・資金の各プログラム合計で、のべ八三団体に八〇〇万円相当の資源を提供することができました。

事務所の什器・備品などを提供する「物品提供プログラム」では、東京海上日動火災保険(株)様、日本たばこ産業(株)様、東北ユーザック(株)様などから、三三のNPOに三三二点の物品提供が行われました。事務所の開設や事業の拡大などで、まだまだ事務用品の需要は高い状況です。提供・内覧会の様子は、ホームページ
(<http://www.minmin.org/SSS/>)から見るのができますので、一度ご覧ください。

「パソコン提供プログラム」では前年度までと同様、(社)宮城県情報サービス産業協会様のご協力で中古パソコン一五台の提供を行いました。今年度はノートパソコン中心の提供だったこともあり応募倍率は四倍を超え、ニーズの高さがうかがわれました。

今年度、もっとも活発に動いたのが、資金提供プログラム「みんなファンド」でした。宮城県のNPO支援基金「みやぎNPOファンド」が新たにメニューに加わり、「ふくふくファンド」「ろうきん地域貢献ファンド」「みんなファンド(本体ファンド)」とあわせて年間で約六七〇万円の資金提供を行うことができました。こちらも詳細はホームページ
(<http://www.minmin.org/fund/>)をご覧ください。

当システムは、地域の皆様のご寄附などを原資に運用されています。引き続き、ご協力をお願いします。(高田 篤)

報告 ● サポート資源提供システム ●

二〇〇四年四月～二〇〇五年三月の資源提供は
合計八〇〇万円! (累計二二八〇万円!)

報告 センター サロン

● 1月19日 新年交流会2005

1月のセンターサロンは、恒例の一品持ち寄りの新年交流会。毎年楽しみにしてくださっている方も多い企画です。今回は企画に当センタースタッフ以外の方にも参加してもらい、プログラムの検討や参加者の呼びかけ、当日の運営に協力してもらいました。参加者はここ数年で最も多い66名（参加者53名+スタッフ13名）となり、会場は始めから終わりまで大盛り上がり。イベントのチラシを配りながら、ご自慢の料理を勧めながらと、会場のあちこちで交流の輪ができました。たくさんの人と話せるようにと、人の動きが出るようなゲームを考えていましたが、あまりの盛り上がり用に用意した半分しかできないほどでした。

「普段活動している中では会う機会がなかった人たちと話すことができた」「あらためていろいろな市民活動があることを実感した」と参加者から感想をいただきました。やはり他団体と交流する機会が求められているようです。新しいことを一緒に始めたり、何かの機会に協力するような、お互いの顔がみえる関係が、新年会をきっかけに生まれて、それが活動の力になってくれたらと思っています。なお、企画協力として小林幸司さん、田中聡子さん、西舘和則さん、前田東樹さんにご尽力いただきました。ありがとうございました。（中津涼子）

● 2月24日 NPOスタッフの【ためになる裏技 ワード編】～図や写真の作り方&入れ方～

2月のセンターサロンは、東北電子専門学校の教室にて、「NPOスタッフの【ためになる裏技 ワード編】～図や写真の作り方&入れ方～」をテーマに開催しました。

今回のきっかけは、11月15日に行われたアレマ会議（主催：仙台市環境局）でお会いした、同専門学校の今野室長の「NPOのために、何かできることをしたい」との一言でした。講師は、同専門学校で主にビジネスソフト、ライセンス対策の指導を担当されている鈴木こず江先生にお願いし、ITサポーターとして、専門学校の生徒4名も加わって、ご指導していただきました。

まず始めに、あらかじめワードで作成された地図と同じような地図を作成しました。「ワードでカーブの道路や立体の建物などが作図できるとは...」と、ワードの機能に驚きの声もありました。続いて、あらかじめワードで作成された文章に写真を同じ大きさで入れる方法や、トリミングの方法など、今すぐ使える技を習得することができました。

今後、「企業が何かしたい」というニーズに対し、中間支援センターとしてどのように関わっていくのか、具体的なメニューを取り揃える必要性を感じました。（遠藤孝志）

●飯塚 文子 出身地：宮城県仙台市／特技：けっこう前向き、ベランダで無農薬野菜作り／抱負：以前利用者としてサポートセンターに来ていた事があったので求人を見つけた時は「ここしかない！」と直感しました。いざ勤務してみれば毎日が勉強です。今でもドキドキ、バクバク、先輩スタッフや利用者の皆さんにご迷惑を掛け、時に落ち込んだりもしますがこの出会いを無駄にしない様、頑張ります。

●高橋 信恵 出身地：宮城県仙台市／特技：人と人をつなぎあわせるのが得意。なんでも出るので仲間からは「ドラえもん」と呼ばれています。／抱負：研修で初めて市民活動を支える現場の方々の大変さと知識の豊富さに驚いています。少しでも早くそこに近づけるよう努力していきますので、よろしく願いいたします！

●門間 裕美 出身地：宮城県塩竈市／特技：いろんな角度からシミュレーションをすること。／抱負：サポートセンター開館時すぐから、利用させていただいていました。活動で困った

新スタッフ 紹介

時は、いつもスタッフの方に相談し、アドバイスによって乗り越えられた問題も多々ありました。これからは、自分が利用者の方に相談したいと思ってもらえるスタッフになりたいと思います。

●関口 憲一 出身地：宮城県仙台市／特技：ゆっくり山を登ること／抱負：団塊の世代として高度成長の時代も含め、この30数年企業人として競争社会を経験してきました。多少疲れも失業（考える時間を持てる期間？）も経験しました。現在は聞くこと覚えること全て新鮮なそして楽しさと期待を抱いている研修生です。多くの皆様との触れ合いを楽しみにしています。

●太田 貴 出身地：宮城県仙台市／特技：いろんな人と仲良くなれること／抱負：市民活動を始めてまだ間もなく、NPOについても全然勉強不足ですが、NPOのプロになれるよう日々努力致しますのでよろしく願いいたします。仙台市市民活動サポートセンターがより多くの人にとって身近な存在になるよう、お手伝いしたいと思います。

BENYのみ出しエッセイ ◆らくだのブック◆ vol.14

アドバルーンをあげよう

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

「せんだいCARESのパンフレットを企業の方に配ってもらいました。すると、ある不登校の子どもの学習指導をしている団体では、これまで問い合わせのなかった父親からの電話が来るようになったそうです。子どもが不登校になって困っていた父親は、会社で渡されたこのパンフレットに救われたのかもしれないね。」とある方に話をしていたところ、相手の方も家族に痴呆の症状がでて困った体験をしたとき、当事者になって初めて痴呆症に関する行政のしくみや情報を集め、その結果、いろいろな問題に気付いたということだった。

確かに、わたしたちは、いつ・どこで自分が問題を抱える当事者になるかわからないし、当事者になった場合、どこにその相談をしたらよいかかわからないことがたくさんある。

わたしも当事者になることで、第三者とし

ては見えなかったことが見えるようになった経験がある。一番身近なところでは、親が介護保険の対象者になったことだ。それまでは制度としてこの仕組みが出来た背景やその問題点などは理解していたが、サービスを受ける当事者としてではなかった。介護保険を受ける対象者になってみると、サービスをどこから受けるかを決めるための情報が日常的に手に入りにくいことがわかった。幸い、わたしの場合は知っているNPOがサービスを提供していたので、すぐに相談することが出来たけれど、多くの人はそういう情報を得ることが難しいのが現状だ。

この第三者が当事者になる瞬間、NPOは「ここにあなたを支える人たちがいるよ」「あそこに聞けば問題解決が出来るよ」と、その存在がすぐに発見できる工夫が求められているのだと思った。まさに、アドバルーンをあげることも大切なのだと思う。

街中が音楽で溢れる日：毎年九月の第二週の土・日に開催される「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」。一九九一年第一回の参加バンド数二五、ステージ数九、観客数五千人から始まり、二〇〇四年第一四回には、参加バンド数六六六、ステージ数八八、観客数五六万人までになり、仙台の代表的なお祭りとしてすっかり定着した。年々規模が大きくなっていく中で、実行委員会はどのように動いてきたのか？本書は、実行委員として関わっている著者が、立ち上げたきっかけから現在まで、ジャズフェス一四年間の歴史をひもとき、その中の試行錯誤と積み重ねが実践的に語られている。本文中には多くの実行委員の方も登場し、彼らの熱い想いが書かれている。まるで実行委員から直接話を聞いているような本である。

まちの変化とともに始まったジャズフェス。お祭りが大きくなっていく中で、ジャズフェスのあり方、実行委員会のあり方が何度も議論になったという。そんなときに判断の基準になったのは「イベント（人数・予算など数字の上での成功・不成功にこだわるもの）ではなく、お祭り（数字にこだわらず街に必要なもの、ずっと続いていくもの）であること」「市民が支え、市民がつくり、市民が楽しむ、市民の力でつくっていること」。市民がつくるお祭りを徹底的に貫いてきたことが、資金調達や広報においても効果をあげてきたそうだ。

組織づくりや運営に困っている方、多くの人の共感を得る活動づくりのコツを知りたい方お祭りの実行委員会に限らず、あらゆる市民活動団体に参考になる一冊。

（中津涼子）

BOOK

ヒトを呼ぶ 市民の祭り 運営術
定禅寺ストリートジャズフェスティバルのまちづくり

菊地昭典 著・学陽書房 発行
一八〇〇円（税別）

活動
報告事務局活動報告
(2004.12/21~2005.2/21)

■事務局/自主事業関連

- ・センター会議 (12/22 1/26)
- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (1/5・12・19・2/2・9・16)
- ・事業・運営会議 (第97回:1/6 第98回:1/17)
- ・事業・企画戦略会議 (1/6・1/20・2/21)
- ・市民の提案力向上セミナー「伝えられない」「やってみよう」 (1/13・1/27)
- ・事務局通信みんみん発送 (1/14)
- ・みやぎNPO夢ファンド中間報告会 (1/15)
- ・セナードサロン「新年交流会2005」(1/19 遠藤・中津)
- ・理事会 (第68回:1/20 第69回:2/21)
- ・サポート資源提供システム物品提供/東北ユザック (2/11)

■NPO/企業関連

- ・NPOブラッシュアップセミナー広島編/主催:(特)日本NPOセンター (1/8 紅邑)
- ・第2回NPO学習会/主催:地産地消を進める会 (1/8 加藤)
- ・NIRAコミュニティ再生研究会/主催:東北開発研究センター (1/14・28 加藤)
- ・平成16年度チャレンジコミュニティ創成プロジェクト「第4回ギャザリング」/主催:(特)ETIC (1/14 加藤)
- ・NPO理事スタッフのための連続講座4「底力のある広報へ」/主催:(特)茨城NPOセンター・コモンズ (1/14 紅邑)
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進員等研修「プレゼンテーションやワークショップの手法について」/主催(財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (1/15 遠藤)
- ・社の伝言板ゆるる意見交換会 (1/27 青木)
- ・政策学校一新塾/主催:(特)一新塾 (1/29 加藤)
- ・NPO総合マネジメント科/主催:(特)NPO推進ネット (2/8 加藤)
- ・仙台印刷工業団地協同組合青年部講演 (2/9 加藤)
- ・ソーシャルイノベーションジャパン設立総会 (2/12 加藤)
- ・ローカルマニフェスト (2/15 加藤・紅邑)
- ・次世代ワークショップ「相談カフェ」/主催:(有)ピー・イス・サポート (2/18 加藤)
- ・NPOと行政の対話フォーラム '05/主催:(特)日本NPOセンター (2/18 遠藤)
- ・NPOと企業の対話フォーラム '05/主催:(特)日本NPOセンターほか (2/19 遠藤)
- ・NPO支援センター研修/主催:(特)日本NPOセンター (2/20 遠藤)
- ・「いのちと食」情報センターの今後を考える集い (2/19 加藤)
- ・多文化セミナー/主催(財)三重県国際交流財団 (2/20 加藤)

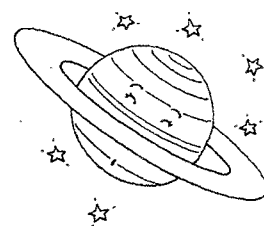
■自治体関連

- ・仙台市職員研修所 (12/21・1/28 加藤)
- ・仙台市環境審議会 (12/21 遠藤)
- ・起業家育成・支援事業(アクティブシニア・ビジネス部門)相談会/主催:宮城県産業人材育成課 (1/6・2/14 加藤・紅邑)
- ・宮城県民間非営利活動促進委員会 (1/12・2/16 加藤)
- ・仙台市市民公益活動促進委員会 (1/12 紅邑)

- ・仙台市すこやか子育てプラン第3期行動計画策定に向けた市民意見懇談会 (1/15 青木)
- ・みやぎNPO夢ファンド報告会 (1/15)
- ・ペットシッター事業化プロジェクト勉強会講演/主催:(財)仙台市産業振興事業団 (1/17 加藤)
- ・住民協働ワークショップ/主催:(財)ふくしま自治研修センター (2/1・2・3 加藤)
- ・地球環境基金地球環境市民大学校協働コーディネーター養成講座「愛する人ほどにくらいしい?行政・企業とNPOの幸福な関係とは・・・」/主催:(独)環境再生保全機構地球環境基金 (1/22・23 加藤・遠藤・小松)
- ・災害ボランティアセンター連続講座 (1/22 青木・八田・渡辺)
- ・栃木県NPOマネジメント講座「NPOの可能性をマネジメントする」/主催:栃木県 (1/30 加藤)
- ・仙台市社会教育委員の会議 (2/1 紅邑)
- ・仙台市市民活動サポートセンター/人材育成「実践!NPOのボランティアマネジメント」「うまくいくNPOの事業開発のコツ」「NPOいろは塾」(2/3・4・16)
- ・仙台市市民活動サポートセンター市民活動カラフルフェスタ2005「仙台の市民活動~これまでとこれから~」(2/5・6)
- ・新・市総合計画基本計画検討委員会に係る講演会「市民がつくる新しい公共」/主催:いわき市 (2/7 加藤)
- ・市民活動(NPO・ボランティア)フォーラム「ちいさな一歩からはじまる市民活動の新しいかたち」/主催:一関地方振興局、(特)レスパイトハウス・ハンズ (2/11 加藤)
- ・市民トラストの森/仙台市建設局 (2/12 青木・佐藤・本田)
- ・仙台市情報化推進会議 (2/15 遠藤)
- ・NPOセミナー「NPOその本質と可能性」/主催:静岡県 (2/17 加藤)
- ・柴田町住民自治基本条例検討委員会 (2/17 紅邑)
- ・仙台市花と緑のアドバイザー養成講座フォローアップ講座/主催:仙台市 (2/17 青木)

■相談、ヒアリング関連

- ・経営相談 (1/18・2/15 加藤)
- ・ヒアリング:喜多方市民活動サポートネットワーク (1/11 加藤)
- ・ヒアリング:三菱総合研究所 (2/15 加藤)
- ・ヒアリング:ジオ・プランニング (2/18 青木)
- ・取材:(特)ETIC (2/28 加藤)



サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成16年度会員 (敬称略・順不同、2004年12月26日～2005年2月21日)

(新規会員)

高橋正紘、芝原浩美

(継続・正会員)

(特) 茨城NPOセンター・commons、横須賀和江、片桐和紀、木村孝

(継続・準会員)

高橋和恵

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

東北労働金庫 (ハガキ、テレフォンカードなどのご寄付)

◆NPO経営相談

日程：4/19、5/24、6/23

時間：13～17時

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

相談料：2500円

(1時間単位、会員500円割引)

予約制です。まずはお電話を!

(担当：青木)

募集・講座紹介

◆<市民社会の小さな学校インターンシップ

奨励プログラム>インターン募集のお知らせ

当センターでは、昨年に引き続き同プログラムを受け入れることになりました。内容は、大学・大学院やさまざまな場で学ぶ若者が1年間、インターンとして当センターで学び、活動してもらうというものです。

活動期間：2005年6/21～2006年6/20

応募期間：2005年4/21～5/11

応募先は、市民社会創造ファンド

<問合せ先>当センター担当：紅邑(ベニムラ)、

市民社会創造ファンドsscs2@civiltfund.org

TEL03-5220-2101：担当 浜本・富永



Eメールをお知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方々に、まだメールアドレスを事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。minmin@minmin.org

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

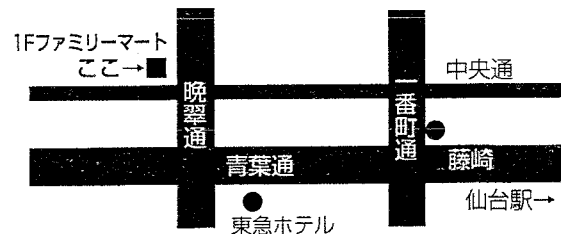
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ!

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



みんみん編集後記

■初めて家族(父)が亡くなった。突然のことで、悲しむよりその後のスケジュールをこなすことではいっばいだった。死は、予定通りに訪れないものだと思った。そんなさなか、頼りに出来たのは当センターのスタッフだった。遠くの親戚より近くの他人という言葉を実感した。どうもありがとうございました。(紅邑)

■仙台の街をていねいに散歩してみたくなる本「仙台とおき散歩道」に出会った。奥州街道にそった町並みやそこに暮らす人々が描かれている。季節は春。桜の花に誘われて、自分の暮らす街を探検してみたら、新たな発見や出会いがあるかも知れない。(小松)

■ただ今新スタッフ4名が研修中ですが、今回も経験豊富で優秀な方が数多く応募してくれました。あるスタッフ曰く「全員を採用したいくらい! (?)」…。最近、やる気ある人たちの著しい成長を目の当たりにするにつけ、なんか面白いことができそうでワクワクする今日この頃です。(遠藤ち)